

研究成果で振り返る2012年

～農林水産研究成果10大トピックス選定

今年も残りわずかとなり、様々なメディアで2012年を振り返る行事などが取り上げられるようになってきた。当紙も今号で2012年を振り返るニュースをお届けしたい。農林水産省に設置され、国の研究計画などを策定する農林水産技術会議は、12月13日に「2012年 農林水産研究成果10大トピックス」(下掲)を発表した。これらのトピックスは、民間や公立の研究機関の研究成果のうち社会的関心の高いものを、農業関係専門誌などの協力を受けて農林水産技術会議が選定したものだ。

2012年10大トピックス

それぞれのトピックスを見てみよう。は統計史上で最も暑い9月だった今年、水稲では高温に起因する乳白粒などの被害粒発生に悩まされたことを思い出す。コメの販売価格を大きく下げる被害粒の発生を防止するメカニズムの発見は歓迎したい。は当紙でもVol.387とVol.398で取り上げているが、世界で最も生産量の多い野菜であるトマトの品種改良の加速が期待できると共に、重金属汚染を防止できる農作物の開発に光を当てた取り組みだ。は、震災に起因する原発事故以来、我々の大きな懸案である放射性物質が飛散した土壤の回復に関する研究技術だ。2011年より引き続き行われている農地土壤の除染技術の研究については、今後とも進展を期待したい。そしては農業機械に関わる研究開発トピックス。慣行栽培に対する省力化や農薬飛散、騒音などを抑える取り組みであり、我が国の技術水準の引き上げに資するものだ。

【2012年農林水産研究成果10大トピックス】

高温で乳白粒が発生する原因を遺伝子レベルで解明 ～高温登熟耐性品種の開発に期待
トマトの全ゲノム解読に世界で初めて成功 ～育種の加速に期待
低カドミウムコシヒカリの原因遺伝子を発見 ～カドミウム低減技術のコメ以外の作物への展開に期待
世界初！免疫不全ブタを開発 ～ヒト組織や臓器の再生に向けた研究進展に期待
ブタのゲノム及び遺伝子配列の解読に成功 ～豚の品種改良の加速化に期待
汚染された農地土壤からセシウムを99%除去 ～汚染土壤等の大幅な減容化に期待
牛の分娩後に胎盤を剥離排出するシグナル物質を世界で初めて発見！ ～子牛生存率の向上や畜産農家の労働負担軽減に期待
青刈りトウモロコシ用高速不耕起播種機を開発 ～飼料用トウモロコシの栽培の省力化に期待
有機質資源を短期間で無機化、エネルギーを必要としない新技術 ～CO2排出量の大幅な抑制に期待
果樹用新型スピードブレイヤーを開発、農薬飛散騒音を大幅低減 ～都市近郊栽培での活用に期待

建設業者が担う圃場の再生～圃場再生に向けた取り組み

平成22年の農林業センサスによれば、我が国の耕作放棄地は40万haにのぼる。平成22年に行われた農地法の改正などにより農地の賃貸や貸し付け条件が緩和されたことなどの取り組みが奏功、近年耕作放棄地の増加傾向は緩やかになってはいるが、まだ歯止めがかかっているとは言えない状況だ。このような中、地場の建設業者による耕作放棄地の圃場再生に向けた取り組みが各地で見られるようになって来た。

建設業者は放棄耕地回復の力強い担い手

「わが県は耕作放棄地の増加に苦慮しており、県独自の助成措置を講じて圃場再生を支援している」と、耕作放棄地の増加に悩む四国某県の耕作放棄地対策担当者は語る。「最近目立つのは助成措置を活用した建設会社が圃場再生に取り組む事例。所有する重機を使用し、耕作放棄地の圃場を整備している。建設会社なら重機の扱いは慣れており、10a程度なら数時間で圃場を整備してしまう。」

(次ページへ続く)

(前ページより続く)

もちろん圃場の整備だけでなく、土作りも必要だ。多くの場合、地場の建設会社は地元の農家からの就業者がおり、その縁故を利用して経験者による対応が可能。しかし「取得し易い耕作放棄地は肥沃でない場合が多く、ケールやキャベツのような条件の悪い圃場でも育ちやすい作物を栽培しているようだ」(同県担当者)。

農水省経営局の調査によると、平成24年10月では1,026社の一般法人が農業参入し、このうち139法人が建設業者だ。これまで植物工場などの施設栽培の取り組みで取り上げられることの多かった建設業者の農業参入であるが、放棄耕地の回復にも存在感を発揮しているようだ。



低木が生い茂る耕作放棄地

行政の助成措置が追い風

新規農業参入者や意欲ある農業法人が規模拡大に向け農地の確保を目指すなか、条件の良い耕地は地権者が手放さないため、売買や賃貸が成立しない状況がある。これら新規農業参入者や農業法人の規模拡大に向けた動きを、耕作放棄地の活用に誘導し、耕作放棄地の拡大を抑制すべく国や地方自治体は施策を講じている。

農林水産省も耕作放棄地対策として圃場再生に向けた取り組みを行った事業者に対して助成措置を実施。例えば荒れた農地の障害物除去には定額5万円/10a、土作りに2.5万円/10aの助成が受けられるほか、農機の導入や農業用施設の整備にも経費の半額以内ではあるが助成が受けられる(注)。加えて、一部の地方自治体は国の助成措置に上積みして支援している模様だ。建設業者の取り組みは、これら行政からの支援措置が追い風となっている。

(注)「主食用米及び畑作物の所得補償交付金の対象作物」「米・水田活用の所得補償交付金の交付対象農地」は支援対象外。

年末のご挨拶

当社 常務取締役営業本部長 高橋 繁治

今年も余すところ5日となりましたが、この師走はやはり選挙の話題でしょうか。わが国は熱気なき総選挙と言われる過去最低の投票率の下、自民党が圧勝、安倍晋三自民党総裁が首相に返り咲くことになりました。この1ヶ月間に選出された日本、韓国、中国のニューリーダーである、安倍晋三三期首相(58)、朴槿恵次期大統領(60)、習近平総書記(59)は、3人とも有名な父、祖父の影響を受けた2世や3世で年齢も近いという共通点を持っています。今年は世界の主要国で指導者が交代し、その共通のテーマは「経済復興」で、この3人も勿論「経済復興」に取組みますが、特に尖閣諸島や竹島の領有権紛争など民族主義的な課題をこの共通点を持つ3人がいかに調整していくかが注目されます。

一方、この一年を振り返りますと今年も日本各地で大雪の被害から始まり、豪雨、竜巻を伴う強風、猛暑・高温など異常気象が農作物の生産に大きく影響しました。海外では米国中西部の猛暑と干ばつの影響で大豆・トウモロコシの価格は08年の記録を破り、市場最高値をマークしました。異常気象は最早、毎年のことになってしまったようです。

コロンブスのアメリカ大陸発見を正確に予言したと言われる古代マヤ文明の「マヤの暦」によれば、先週の22日が世界滅亡の日だったようですが、ノストラダムスの大予言と同様に人類は今回も何ごともなく生き延びています。実は「マヤの暦」の終わりは、現在の周期の終わりであり、そのあとは新しい周期に入り永遠に循環していくという考え方から、これから人類は新時代を迎えるという説もあるようです。それなら来年こそは天候にも政治にも恵まれた幸多い新時代の幕明けの年となりますよう心よりお祈り致します。

本年も当紙をご愛読下さいまして、誠に有難うございました。今年は事務局も新体制となり、毎号チャレンジの連続でしたが、いかがでしたでしょうか。来年もいい紙面作りができる様に、アンテナを張って頑張りたいと思います。どうぞ良いお年をお迎え下さい。

編集事務局：小田、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>